



地域医療連携 だより

第 16 号

平成 24 年 1 月発行

富山通信病院

地域連携・医療福祉相談室

院長あいさつ

あけましておめでとうございます。

院長 高田 正信

昨年の3月11日に、東日本大震災という未曾有の出来事がありました。マグニチュード9という巨大地震、10メートルを超える巨大な津波により破壊され、多くの方が職場や家を失い、2万人近い人々が命を奪われました。津波の直撃を受けた東京電力福島第一原発の事故は、核燃料のメルトダウンという最悪の状況を発生させました。政府は年末に、福島第一原発は「冷温停止状態」と発表し政治的決着をつけようとしています。まだまだ数多くの住民が自分の家にも帰れない状況であり、完全な廃炉までには、30年ないし40年もの期間が必要といわれています。



富山通信病院では、一昨年暮れにMDCTが導入され、昨年は血管連続撮影装置の導入で、心臓カテーテル業務が動きだし、順調に経過しました。専門の放射線技師が今月から勤務され、その成果が上がってきています。昨年5月からは個室を増設し、患者さんから好評です。

今月から外科系の念願だった手術室の全面改修工事を実施します。大規模な工事のため向こう2ヶ月間手術室は使えませんが、3月初旬には新装新たに完成、稼働できる見込みです。また、同じ頃に外科での消化器内視鏡の新しい検査機器、および内科で昨年秋から始まった内視鏡的早期胃癌切除術が円滑に行われるよう幾つかの内視鏡的治療機器が購入されます。

地域連携室はこの規模の病院としては異例の充実したスタッフを揃えています。病診連携、病病連携の要になっておりますので、どうぞご利用ください。昨年大好評であった開業医の先生方を対象にした地域連携研修会を、今年も2月21日（火曜日）に計画しています。現在、内科と婦人科外来を担当して頂いている、小林正教授と井上正樹教授とに御講演頂きますので是非ご参加下さい。

本年も、当院の経営理念である「市民に開かれた信頼される病院」を目指し、患者さま中心の質の高い、安心と信頼の医療の提供に努めていきます。

今後更なる充実を図り、皆様のお役に立つように頑張りますので、何卒宜しく御願い致します。

○藤野由紀子、関堂好子、大上英夫、老子善康

【はじめに】

1日平均6～7回のオムツ交換は患者にとって睡眠・休息などのQOLの低下を招く他、看護師の労力も必要とする。今回、TENA®製品を病棟に導入することを前提として、スキントラブルの観点から調査、検討を行ったので報告する。

【対象】

スキントラブルを起こしていない70歳以上の女性入院患者で、本研究の主旨に本人もしくは代諾者となる家族の同意を得られた6名

【方法】

- 1) 使用オムツはTENAフレックス®、排尿量は1000mlのマキシを1枚単体で使用
- 2) 毎日午前中に微温湯で陰部洗浄を行い、ガーゼで水分を拭き取り、15分後に臀裂部、臀部、オムツ外の皮膚として大腿部の皮膚の生理機能を測定
- 3) TENAフレックス®使用7日目、再度2)の手順と同様に皮膚の生理機能を測定
- 4) TENAフレックス®を装着しての患者の反応・意見の他、看護師にインタビューを行う

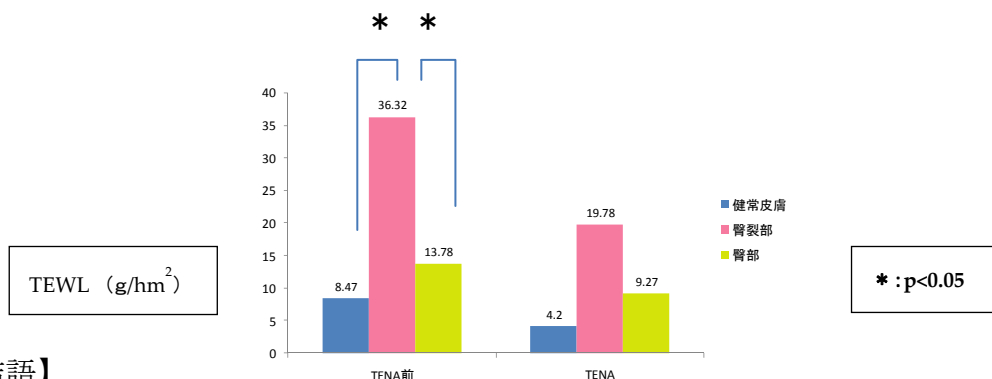
<測定項目>

- ・オムツ交換回数・オムツ枚数・コスト
- ・皮膚の生理機能測定（経皮水分蒸散量（TEWL）・角質水分量・pH）
- ・測定機器：マルチプローブアダプターMPAシリーズ（MPA5）（Courage+Khazaka electronic GmbH社製）

【結果】

- ・従来のオムツ使用時の通常平均オムツ交換回数は1日6.7回に対し、TENAフレックス®では2.7回であった。
- ・コスト的には、従来のオムツ使用時は1日平均尿とりパット13.8枚+テープ式オムツ1.5枚で合計801円。TENAフレックス®使用では1日2.7枚で423.9円であった。（オムツの金額は院内販売価格を参考に計算）
- ・会話が可能である患者の感想は、従来のオムツと比較し、全員が当て心地・吸収・夜間の睡眠などにおいて「良い」と評価した。話せない患者の反応は、中途覚醒が少なくなった為か不穏が減少した。看護師の反応は、一人でもオムツが装着しやすく、労力も減少した。

TENAフレックス®使用前後のTEWLの変化



【結語】

従来のオムツに比べTENAフレックス®はオムツ交換回数は減少し、コストも安価であった。今回の研究結果では、皮膚の生理機能変化やスキントラブルを起こすことなくTENAフレックス®に問題はみられなかった。

第2回地域連携研修会を2月21日(火)に予定しています。

次回の開放病床症例検討会は3月27日(火)、4月17日(火)です。

糖尿病教室における個別的フットケア指導の取り組み

Keyword: 糖尿病教室 フットケア 個別指導 セルフケア

○前田 加代子 林 悠佳 徳田博美 石田真紀 藤野由紀子 藤井朱実
富山通信病院

はじめに

以前まで、フットケア指導は糖尿病教室にて、教本に沿って集団講義を行っていた。そのため、フットケアの必要性の理解、セルフケア行動の促進は難しいものであった。そこで、パンフレット、足チェック表を作成し、教室内で個別指導を導入した。また、この方法が有効であるかを検証するため、外来受診時、足チェック表を用いて評価・再指導を行った。今回アンケート調査を含め、患者のセルフケア行動と関連づけ、有効性を検証したので報告する。

I. 研究目的

糖尿病教室における個別でのフットケア指導の導入の有効性を、糖尿病患者のフットセルフケア行動を基に明らかにする。

II. 研究方法

1. 研究デザイン：調査研究

2. 研究対象者：糖尿病教室を受講し、その後2回以上の
継続指導を行った患者24名

3. 調査期間：平成21年4月～平成22年6月

4. 研究方法

- 1) 教室受講前に、対象者にフットケアについてのアンケートを実施した。調査項目は「1日1回足をみるか」「深爪に気をつけているか」「足が腐ることを知っているか」など計10項目であった。
- 2) フットケアに関するパンフレットを作成し、それに沿って講義を行い、その後アンケート結果と足チェック表を用いて個別的に足を観察し、指導、記録を行った。
- 3) 次回受診日を看護計画に記入し、足チェック表を用いて自宅でのセルフケア状況を聞き取り、評価・再指導を行った。
- 4) 外来受診時に、教室受講時と同一のアンケートを実施した。また新たに、「パンフレットは家で見たか」「外来受診後のセルフケア行動」など計6項目について質問をした。単純集計で結果を見出し、指導効果を分析した。

5. 倫理的配慮

所属施設の倫理委員会にて、承認を得て実施した。口頭および書面にて、研究の趣旨を説明し、同意を得られた患者を対象とした。またアンケート取扱いの配慮、本研究以外では使用しないこと、プライバシーを保護し、拒否をしても不利益は生じないことを説明した。

III. 結果

1. 対象者の背景：40歳代～80歳代の男性14名、女性10名。平均罹病期間は7.4年（1年未満6名）

2. 個別指導前後のアンケート結果：受講後のセルフケア行動としては、「足をみる」「保湿クリーム塗布」「爪の切り方に気をつける」の順に多かった。またその他として「食事に気をつけるようになった」といった回答もみられた。自由記載欄には、「糖尿病では足のけがや感染が重症化することがわかった」「大変詳しい説明、対応、処置があり感謝している」などの意見があった。また、今後も継続的に足をみせたいと答えた人は9名であった。

3. 個別指導での指導内容：指導内容として多かったのは、保湿ケア、爪の切り方、足の洗い方であった。助言を実践し、ケアの継続に努めている人は10名であった。また指導時、フットケアの他に血糖値、食事・運動療法、合併症に関する質問も積極的にみられたため、助言・指導を行った。

IV. 考察

受講後では足の洗い方、爪の切り方などケアに関する項目が高くなった。嶋森らは¹⁾「フットケアは、一方的に与える指導ではなく、患者と一緒に足をみて、触れて、考えてもらうことが重要である」と述べている。フットケアは、実際患者自身がしてみないとわからない。パンフレットを用いながらの講義と患者一人一人丁寧に足をみることで、何がこの患者に必要なケアであるかをアセスメントし、短時間でも個別性のある援助を行うことで、患者が自分はどこに気をつけたらいいのか、何をどのような方法で行えばいいのか情報を得ることができる。患者自身が理解できたからこそ、その後のセルフケア行動に繋がったのではないかと考える。また、集団講義では、質疑応答の時間を設けても質問が出ないことがほとんどであったが、今回の指導方法により、フットケアだけではなく血糖コントロール、症状、薬剤に関する質問が聞かれ、看護師を交え受講者同士で話をする光景が毎回みられた。このように、フットケアを通して疾患や生活習慣に対する意識を高めることができ、この指導方法は糖尿病の自己管理にも役立つと考える。

また、定期的な関わりは足病変の予防、糖尿病コントロールに重要だと考える。今後は、受講者への外来での継続的なフォローアップができるような、取り組みを考えていく必要がある。

VI. 結論

糖尿病教室でのパンフレット及び足チェック表を用いたフットケアの個別指導を行うことが、観察方法などの知識の習得・セルフケアの促進、さらには糖尿病の自己管理に有効であると示唆された。

引用文献

- 1) 嶋森好子他：糖尿病看護フットケア技術 第2版，日本看護協会出版会，P9, P116, 2009.

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内科	午前	1診	稲土	島倉	長澤	老子	稲土
		2診	島倉	高田	稲土	高田	島倉
		健診	長澤	老子	長澤/稲土	長澤(島倉)	長澤(稲土/島倉)
	午後	1診	老子	老子	長澤	長澤/稲土	老子
		2診	高田		高田	小林	
外科	午前	大上/(大学)	大上	大上/(大学)	大上	大上	
	午後	大上	大上	※大上	大上	大上	
整形外科	午前	中山	中山	中山	中山	中山	
	午後	中山	※中山	中山	中山	中山	
婦人科	午前	井川	井川	井川	井川	井川	
	午後	※井川	井川	井川	井川	井川	
眼科	午前	坂井	坂井	坂井	坂井	坂井	
	午後	坂井	坂井	坂井	※坂井	坂井	

※は手術日

編集後記

第88回箱根駅伝は福島県いわき市の出身の山の神、柏原竜二選手率いる東洋大学の圧勝でした。大会新記録、10人中6人が区間賞という輝かしい記録は新年を明るく飾ってくれました。各選手の負けない、あきらめない姿に感動し刺激された人も多いのではないかと思います。私も自分に喝を入れ、今年も頑張りたいと思います。

(地域連携・医療福祉相談室 堀江 美保)

富山逋信病院地域連携・医療福祉相談室

電話番号：076-421-7819

F A X：076-421-7829